

第6学年 国語科学習指導案

児童 6年2組 男子 11名 女子 15名
指導者 菊池 梢

ものの見方を広げよう

中心教材 『鳥獣戯画』を読む (光村図書6年)

〈指導事項〉

- ◎ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。(読むウ)
- ◎ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。(読むオ)
- ◎ 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。(伝国(1)イ(オ))

〈言語活動〉

- ◎ 「私流
○○絵巻の紹介文」

1. 教材について

- ・ 全九段落から成る尾括型の文章である。
- ・ アニメ監督としての視点から「鳥獣戯画」の絵に対する解説と解釈、評価が述べられた評論文としての特徴をもつ。
- ・ PISA型読解力の要素の一つである、非連続型テキストと連続型テキストとを照らし合わせて読む力、絵を読む力を育てるのに適している。
- ・ 逆接や累加、限定、体言止めなどの強調表現や語りかけるような表現等、ものの見方や感じ方を読者に伝えるための工夫を学ぶことができる。

構成	段落	内容	要点
序論	①	書き出し	蛙と兎の相撲の様子の実況風紹介。
	②		絵の表現方法についての説明と感想。
	③	話題提示	『鳥獣戯画』の紹介と描き方。漫画のようだが、それだけではない。
本論	④	説明	アニメの祖である絵巻物。
	⑤		絵の解説。漫画との共通点。
	⑥		二枚の絵のつながりと筆者の評価。
	⑦		絵巻物の特徴と筆者の評価。
	⑧	まとめ	絵の力を使って物語を語るという日本文化の特色。
結論	⑨	主張	『鳥獣戯画』は人類の宝。

2. 児童について

児童は、説明的な文章の学習において、書かれている内容をとらえるために段落に着目したり構成や要旨を読み取ったりする学習を積み重ねてきた。5年「サクラソウとトラマルハナバチ」「千年の釘にいどむ」「ニュース作りの現場から」の学習では、文章構成やキーワードに着目しながら内容を読み取り、要旨をとらえる学習を行った。6年「感情／生き物はつながりの中に」では、文章構成をとらえたり、文章と対話しながら読むことで筆者が文章を書いた目的を考えたりする中で、要旨をとらえ、自分の考えをもつ学習を行った。その中で、文章構成を考えながら文章を読んだり筆者の考えに対して自分なりの考えをもつことができたりする児童が増えてきている。しかし、叙述に即して読むこと、中心となる語句に気を付けて読むこと、段落相互の関係をとらえたり要点や要旨をまとめたりすることなどの読む力は個人差が大きく十分とはいえない。また、筆者の考えに対して自分なりの考えをもつことについても、経験不足や語彙が少ないことから浅いものとなっている児童が多い。本時では児童一人一人が主体的に読み深められるよう支援していきたい。

3. 指導にあたって

今回学習する主な事項及び活動は、以下の通りである。

- ・絵を読み解いていく筆者のものの見方を学び、自分のものの見方を広げる。
- ・絵と文章とを照らし合わせながら効果的に読む。

本教材は、作品に対する解釈と評価を述べた評論文である。筆者のものの見方に迫るためには、それがどこに表れるかを知る必要がある。作品の何（どこ）を取り上げ、どんな説明や解釈をし、どのような言葉で評価しているかという評論文の読み方を理解させていく。そして、その読み方を活用し次単元へつなげる場として「私流〇〇絵巻の紹介文」という言語活動を仕組む。

第1次・・・単元の見通しや目的意識を持たせて学習への意欲付けを図りたい。

まず、筆者のアニメ作品や絵巻の実物に触れ、絵巻物への興味をもたせる。また、単元のゴールを「私流〇〇絵巻の紹介文を書こう」と設定し言語活動例を示すことで、絵を解説することへの関心を高め、意欲的に学習に取り組むことができるようにしたい。

第2次・・・絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者のものの見方をとらえていく。その際、筆者の考えを読者に効果的に伝えるための表現や構成の工夫に着目させる。また、自分の考えと比べさせることで、ものの見方を広げていきたい。

第3次・・・第2次でまとめたことをもとに、「私流〇〇絵巻の紹介文」を書かせる。

単元を通して、絵を読み解いていく筆者のものの見方を学び、自分のものの見方を広げ、紹介文を書くという必要性のもとに教材文を解釈することを大切にしていきたい。そして、内容面や能力面について次教材「この絵、わたしはこう見

る」と関連させることにより，次教材では，本単元で習得した力を生かして絵画に対する感じ方やものの見方を書く力を培うことが目標となる。その学習へのステップとして，本単元では紹介文を書くという言語活動を位置づけたい。

4. 単元の目標

- ・ 絵巻物に興味をもち，絵巻物について解説する文章を読もうとする。
- ・ 絵と文章を照らし合わせながら，筆者の着眼点や表現の工夫を読み取ることができる。(1)ウ
- ・ 語句と語句とがどのように関連し合っって文章全体を構成しているのかを理解することができる。(1)イ(オ)

5. 単元の評価規準

- 【関】 絵巻物や絵を紹介することに興味をもち，自分の選んだ場面の解説に生かすために，筆者の着目点や評価語彙・表現の工夫について読もうとしている。
- 【読】 絵と文章を照らし合わせながら，筆者のものの見方を読者に伝えるための工夫と効果について理解している。
- 【言】 文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み，語句と語句との関係を理解している。

6. 単元指導計画(全7時間)

段階	ねらい	時間	主な学習活動	評価規準と評価方法	言語活動
見通す	単元の見通しや読みの目的及び観点をもちつことができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者のアニメ作品や絵巻の実物に触れ，絵巻物や教材に興味を持つ。 ・ 単元のゴール，学習課題を知り，学習の見通しを持つ。 ・ 「信貴山縁起絵巻」「大納言絵巻」の内容や背景を知る。 	<p>【関】 絵巻物や絵を解説することに興味を持ち，絵について気付いたことを発表している。〈発言・ノート〉</p> <p>【関】 解説文を書こうという意識をもっている。〈ノート・観察〉</p>	「私流〇〇絵巻の紹介文」を書こう。
深める	表現や構成の工夫について考え，筆者のものの見方を	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵と文章を照らし合わせながら読み，絵に対する筆者の着目点と評価を見つける。(1) 	<p>【読】 絵のどの部分を取り上げ，何に着目し，どう評価しているかについて絵と文章を対照させながら読み取っている。〈ワークシート・発言〉</p>	

	とらえることができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の見方を読者に伝えるための筆者の表現や構成の工夫を見つける。 ・筆者の絵巻物に対する評価をまとめる。 <p>(1)</p>	<p>【読】考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫を見つけている。〈ワークシート・発言〉</p> <p>【読】読み取った筆者の評価をまとめている。〈ノート・発言〉</p>	
			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の見方を読者に伝えるための筆者の表現や構成の工夫とその効果や意図を整理する。 <p>*再読 (1)</p>	<p>【読】表現や構成の工夫について、その効果や筆者の意図を考えている。〈ノート・発言〉</p>	
使う	2次でつけた力を生かして、自分が選んだ場面を紹介することができる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「信貴山縁起絵巻」についての文章と絵を照らし合わせて読み、着目点や表現の工夫とその効果を確認する。 ・筆者の考えを読み取り、自分の見方をもつ。 <p>*再読(1)本時</p>	<p>【読】表現や構成の工夫について、その効果や筆者の意図を考えている。〈ワークシート・発言・ノート〉</p>	
			<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ場面の絵を読み取り、自分の見方をもつ。 ・自分が選んだ場面についての紹介文を書き、交流する。 <p>*リライト (1)</p>	<p>【言】文末表現や助詞の使い方など、語句に着目し、表現を工夫して使っている。〈記述〉</p>	
			<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文を読み合い交流する。 ・学習を通して新しく知ったことや自分のものの見方が広がったと思うことについて、自分の考えをまとめて話し合う。 <p>(1)</p>	<p>【読】友達の考えと自分の考えを比べ、その違いに気づいている。</p> <p>【読】学習を通して新しく知ったことや自分のものの見方が広がったと思うことについて、自分の考えをまとめて話し合っている。</p> <p>〈ノート・発言〉</p>	

7. 本時の指導（第3次 5/7時）

(1) ねらい

考えを効果的に伝えるための表現の工夫と意図について考え、自分なりの見方をもつことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	支援及び留意点
見通す 8分	1. 前時までの学習を想起する。 2. 課題を確認する。 三本の柱をもとに筆者の見方をとらえ、自分の考えをもとう。	<ul style="list-style-type: none"> 三本の柱「絵に対する見方」「絵巻物に対する見方」「見方を伝えるための表現の工夫」について確認する。 次時で紹介文を書くためという本時の目的意識を持たせる。 筆者は自分の見方を読者に伝えるために表現や構成の工夫をしていることを確認し、本時の必要感を持たせたい。
深める 30分	3. 学習課題を解決する。 (1) 信貴山縁起絵巻の紹介文を読み、筆者の見方をとらえる。 <ul style="list-style-type: none"> 筆者の着目点や表現の工夫を見つける。(再読) 自分のものの見方を読者に伝えるための筆者の工夫とその効果や意図について考える。(再読) (2) 信貴山縁起絵巻に対する自分の着目点を考え、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介文に出会う前に絵を読む時間をとることで、自分なりの見方をもたせる。 絵と文章とを照らし合わせさせる。 『鳥獣戯画』を読む」で学習した既習事項を生かして学びを進めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈評価〉</p> <p>A 筆者の着目点や表現の工夫とその効果について書きまとめ、その意図を理解している。</p> <p>B 筆者の着目点や表現の工夫とその効果について書きまとめている。</p> <p>C への支援</p> <p>掲示物やノート of 既習事項をもとに、絵と文章を照らし合わせながら筆者の着目点や表現の工夫とその効果を確認する。</p> </div>
まとめ 7分	4. 学習を振り返る。 5. 次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は「私流〇〇絵巻の紹介文」を書くことを確かめ、意欲や見通しを持たせるようにする。